

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172600583
法人名	株式会社アイ・ディー・ジャパン
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
訪問調査日	平成 20 年 4 月 16 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 30 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2172600583
法人名	株式会社 アイ・ディー・ジャパン
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ
所在地	岐阜県揖斐郡大野町稲富字大明神前1121-1 (電話) 0585-32-4394

評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成20年4月16日	評価確定日	平成20年5月30日

【情報提供票より】(平成 20年 3月 19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有() 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 500 円		

(4) 利用者の概要(3月 19日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低	66 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおのクリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

土蔵のある古民家を改修したホームである。大きな樹木と庭に囲まれた建物は、畳・障子・襖・床の間・広い縁側があり、基本理念である「家庭的な環境」にふさわしい落ち着いた心安らぐ造りである。職員は段差や階段などハード面の制約を日常のりハビリの場として活用し、利用者の自立を促し、構造上の死角は「後ろに目をつけて」と意識し、常に利用者の居場所や状態を確認しながら利用者の思いを汲み取るケアを行っている。また食事を大切に考え、季節の行事に合わせた食事やおやつを手作りし、利用者と共に楽しみを共有している。各居室は個性的であり、利用者は生活を楽しんでいる感じである。運営者は地域のグループホームと連携し、協力しながらグループホームの理解浸透に努力し、地域に溶け込む努力をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の改善課題はミーティングで検討され改善に向けた取り組みがある。緊急時における対応は関係機関や医療機関との連携・協力を得ている。職員の継続研修や家族への報告についても改善の向けての努力が見られる。地域との交流は畑を作り交流のきっかけ作りをするなど、地域性を考慮しながら徐々に地域に溶け込む具体的な改善の努力がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員で話し合いながら自己評価を行い、自己評価で得た意見を今後のケアに活かそうと考えている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族・民生委員・行政や他のグループホームの代表者も参加して定期的に開催されている。運営者は地域に根ざしたより意義のある会議にしたいと考え、自治会代表者の参加を依頼している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に必ず意見等を聞き、訪問のない家族には電話や手紙を送って聞き出すようにしている。玄関の目立つところに意見箱を設置し、意見を言ってもらえるよう心掛けているが、家族から意見や苦情はなく、サービスの反映に至っていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会し、散歩時に挨拶をしたり、神社の行事に出かけている。畑を作り始めた事で近隣から野菜の苗を貰ったり育成指導を受けるまでになり、地道に地域の人々との交流に努めている。運営者や職員は、土地柄とあきらめず、民生委員の協力を得ながら、積極的な交流の取り組みを始めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自で作上げた「家庭的な環境を」を理念としている。運営者・管理者・職員ともに、利用者が地域の中で暮らすことの大切さを意識し、日々のサービスに取り組んでいるが、理念の具体的な見直しはない。		運営基準法令の改正に伴い、住み慣れた地域で暮らし続ける地域密着型サービスを今後も続けていくことが重要である。全職員が話し合い見直しされることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に「家庭的な環境とは何か」を話し合い、職員は「利用者が穏やかに過ごしていただけるように」「自分の家なら」「ご近所づきあいは」と具体的に意識をしながら、日々のサービスに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、散歩時に挨拶をしたり、神社の行事に出かけたり、利用者の楽しみの一環として野菜作りをする中で、地域の方が気軽に声を掛けられる雰囲気を作り、近隣から苗を頂いたり、指導を受けるまでになった。地道に地元の人々との交流に努めているが、まだ積極的な交流にはなっていない。		事業者や職員は、土地柄とあきらめず、民生委員の協力を得ながら地元の人々との交流に取り組んでいきたいとの思いがあり、今後も積極的な努力を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員で話し合いながら自己評価を行い、前回の外部評価の結果もミーティングで話し合い、畑を作り、地域の人々との交流のきっかけにするなど、具体的な改善がなされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・民生委員・行政や他のグループホームの代表者も参加して定期的開催している。運営者は自治会代表者も参加して、地域に根ざしたより意義のある会議にしたいと考えているが声掛けまでとなっている。		自治会代表者など幅広い層の参加を呼びかけ、ホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合いながら、地域の理解と支援が更に得られることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村窓口を積極的に訪問し、相談やグループホームの実情・ケアサービスの取り組みを伝えている。市内の5グループホームが協力し作ったポスターを役場内へ掲示したりパンフレットを置くなど、積極的に連携しサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に日々の暮らしぶりや健康状態を必ず報告している。訪問の少ない家族には電話で報告したり、請求書送付とは別に、写真など同封した報告の手紙を送っている。金銭預かりはせず、立替払いしたレシートと請求書を送付している。職員の移動の報告はしていない。		管理者や職員は面会の少ない家族との連絡に苦慮し、種々試している。利用者と家族の関係を保つため、一層の努力を期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情申し立て窓口の掲示もある。職員も家族の訪問時に意見を言ってもらえるよう心掛けているが、家族から意見や苦情を得ることはなく、サービスの反映に至っていない。		家族同士が集まる機会なども検討し、言い出しやすい雰囲気を作り、家族から得られた意見をサービスに反映させる仕組みづくりが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を極力避けているが、どうしても必要な時は、質問の返答などに工夫をし利用者の不安を最小限に抑える努力をしている。職員の採用時は、ホームに研修という形で来てもらい、利用者と同顔馴染みになってから採用し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。また働きやすい職場作りにも取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の質の向上を図るため出来る限り研修を受ける機会を設ける姿勢はあり、外部の研修会などの情報を職員に提供をしているが、実際の参加は少ない。		勤務に支障をきたさないように研修計画を立て、職員が学習会や研修会に積極的に参加出来るように取り組まれること期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のホームが互いに運営推進会議に出席している。市内5ホームが意見を寄せ合い、ポスターやパンフレットを作って公共の場に掲示・配布するなど、助け合いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族から性格なども含め十分に話しを聞き、アセスメントし、職員は利用者が入居後も雰囲気徐々に馴染めるようミーティングで話し合っている。即入居の方が殆どだが、他の利用者も心配りをして戴けるよう職員が心を配りホーム全体で支援している。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から家紋の知識を学んだり、「ありがとう、すまんね」と言う言葉で励ましを受けている。利用者職員が出来る限り居間で一緒に過ごしながら、食べたり話をする事で喜怒哀楽を共にしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、一人一人に応じた声掛けをし、利用者の行動や言葉、表現から察したり、常に希望・意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意見や希望を聞きながら、全職員でミーティングをし日々の生活の中で課題となるところを見つけ出して利用者に向けた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>三ヶ月ごとの定期的な見直しの他、月に一度のミーティングで話し合い利用者の変化に合わせた見直しを行っている。訪問のない家族には電話や郵送で要望を聞いている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院に付き添ったり、ホームで散髪を行ったり、利用者の希望により家族に代わって買い物をするなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にホームの協力医療機関をかかりつけ医とし、他の医療機関を希望する時は、家族同行で受診していただくよう、入居時に利用者・家族に説明し同意を得ている。月に2回往診があり、受診結果などは家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に利用者や家族と医療的な処置の対応、終末期に向けたケアの方針などの話し合いをしている。かかりつけ医とも話し合いがなされ、方針も共有している。運営者・管理者・職員とも共有した方針を持っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応をミーティングで話し合い、温かく親しみのある言葉かけを行なっている。管理者は職員の教育や書類の保管や取り扱いに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れの決め事はあるが、午後6時に床に付く方がいるなど起床就寝の時間や食事時間など一人一人のペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることの楽しみを大切に、栄養バランスに気をつけながら、一人一人から「おいしい」と言ってもらえるよう配慮している。利用者が自分の食べたお膳を台所まで持って行き、食器洗いをされる利用者も居る。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2・3回の入浴であるが、時間帯や長さは自由である。風呂は毎日沸かしているので希望があれば入浴できる。入浴を拒む利用者は、職員が話をしながら上手に誘導し入浴出来るよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の部屋は自分で掃除をしたり、食器洗いや庭の草取り・野菜栽培を手伝うなど、一人一人の力に合わせた役割がある。テレビを見たり、編み物をしたり、歌を歌ったりの楽しみごとを尊重し支援している。「近くの神社に黄緑の御衣桜が咲いているよ」と教えてくれる利用者があり、日常の喜びを全員で共有している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	神社まで散歩に行ったり、庭でひなたぼっこをしたりしている。外は道が悪く、坂になっていて危険なため、利用者一人での外出は困難である。管理者や職員は出来る限りの外出支援を行いたいと考えているが、人的に難しい状態である。		外出を望む利用者を支援する方法を、全職員で話し合い工夫されることを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は利用者の状態や行動を把握していて、玄関の鍵は日中掛けていない。日本家屋のため居室や廊下・縁側などに雨戸があるが、冬場の寒い日以外閉めることはない。2階の居室には扉の上に鈴をつけ利用者の動向を知る工夫をしている。外出した利用者に対して、近所の方から連絡がもらえる関係も出来ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下で避難訓練をし、非常時の食糧備蓄もあるが、マニュアルはない。しかし昨年早朝、実際に隣家火災に遭遇し、職員の適切な避難誘導と近所の人々の協力で全員無事であった。その経験を全職員が話し合い共有している。		実際の経験を活かし、地震・風水害などの災害も想定した具体的なマニュアルをホーム独自で作成し、全職員で確認されることを望む。また運営推進会議などでも提案して、更なる近隣の人々の協力を得ることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に食事の摂取量や水分摂取量の記載があり、ひとりひとりの摂取状態に合わせた配慮をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少し狭いが居間は、壁に利用者の好きな歌詞が貼られ、いつでもみんなで歌って楽しめる団欒の場となっている。四季を楽しむことが出来る日当たりの良い縁側は、利用者にとって昔から生活していたような落ち着いた空間となっている。		
		居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、ベット・布団・テレビ・テーブル・安楽椅子・衣装ケース・鏡台・お位牌など、一人一人好みのものや使い慣れたものをそのまま持ち込み、たくさんのぬいぐるみを置く利用者も居て、個々の思い出を大切にした個性的な居室作りとなっている。		